

溶存硫化物の分布と蓄積要因

漁場環境研究部 漁場改善グループ

有機物の分解に伴い主に海底で産生される溶存硫化物は、海水中の溶存酸素を消費するため、成層期には底層水の貧酸素化を進行させます。貧酸素化が進行して無酸素となった底層水には溶存硫化物が蓄積され、こうした底層水に酸素が供給されても、溶存硫化物の蓄積量に応じて酸素がすぐに消費されてしまいます。また、溶存硫化物は、魚介類に対して強い毒性を示すとともに、苦潮の原因ともなり、その量や分布は、苦潮発生の有無やその規模に関わってきます。

そこで当グループでは、苦潮発生件数の多い三河湾東部海域で、溶存硫化物の分布状況の調査を実施しています。今年度の調査では、量の多寡はあるものの、溶存硫化物は毎回、蒲郡港周辺で多くなっていました(図1)。昨年度も同様の分布が見られています(水試ニュース570号)。

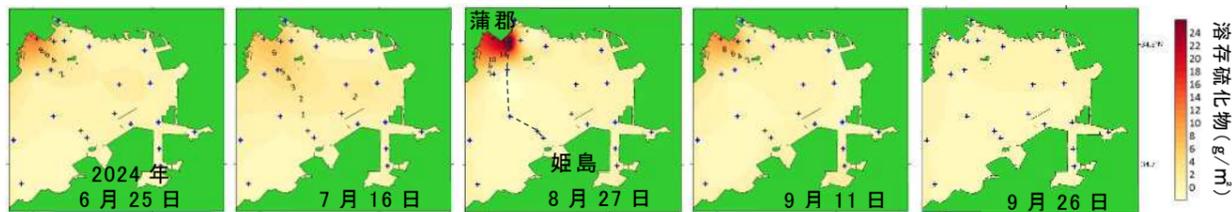


図1 三河湾東部における溶存硫化物の分布(鉛直方向に積算)

溶存硫化物の蓄積具合は、溶存酸素と溶存硫化物の供給バランスにより決まります。図2は、溶存硫化物が最も多かった8月27日の姫島から蒲郡にかけて(図1の点線のライン)の水質の鉛直断面図です。溶存硫化物の多い場所は周辺よりも水温が低くなっており、海水交換が乏しいために温度上昇しにくく、酸素供給の少ない海域となっています。また、蒲郡港周辺は、底泥中有機物(COD)が多くなっており(水試ニュース570号)、海底から多くの溶存硫化物が供給されやすい場所です。

これらのことから、蒲郡港周辺海域は、溶存酸素の供給が少なく、溶存硫化物の供給が多いため、溶存硫化物が蓄積しやすいと考えられます。

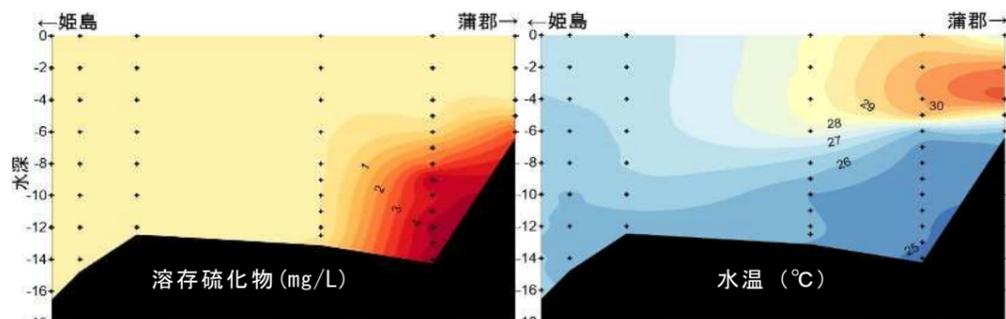


図2 姫島沖から蒲郡沖にかけての水質の鉛直断面図(8月27日)

のり養殖の季節を迎えて ー今秋の水温動向ー

企画情報部企画普及グループ

のり養殖には健全な種網の確保が重要で、特に育苗期には、のり網を張り込んでから17日以内に水温20℃を下回らないと基部の発達不良により、のり芽が脱落してしまいます。そこで図4は、三河湾内にある水産試験場の自動観測ブイ3基の平均水温(水深3.5m層)を、図5は漁業生産研究所地先(南知多町)の水温をグラフに示しました。

9月になっても残暑が厳しく、海水温は平年を3~4℃上回る状況が続いていました。9月下旬から水温はやや下降したものの、三河湾内(ブイ平均)及び伊勢湾内(漁生研地先)はともに2℃以上高めで推移しています。東海地方の3か月予報(9月24日気象庁発表)では、気温の高い確率が10月は60%、11月は40%の予報となっています。健全な種網の確保に重要な育苗期における水温降下の停滞も懸念されますので、張り込みのタイミングや張り込み後の網管理に例年以上の注意が必要です。水試の自動観測ブイは、リアルタイムに三河湾の水温を確認できるので参考にしてください。

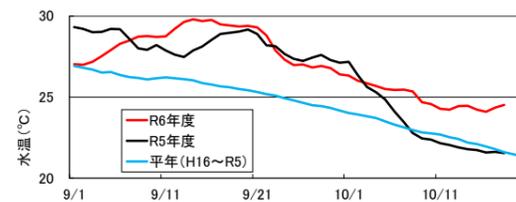


図4 三河湾水試ブイの水温推移(3基の日平均)

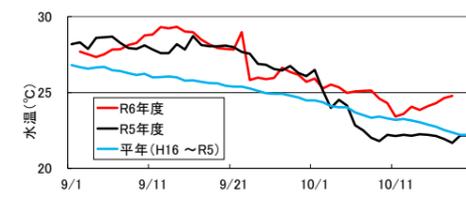


図5 漁生研地先の水温推移(10時計測)



図6 自動観測ブイの二次元バーコード

金魚日本一大会で「金魚飼育相談コーナー」を開設します

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

日本有数の金魚産地である弥富市で、今年も「金魚日本一大会」が下記のとおり開催されます。

この大会は、全国の金魚生産者や愛好家が育てた自慢の金魚を持ち寄り、審査員が色や体型などを評価して、品種ごとに優勝や入賞の金魚を決める品評会です。普段見ることがないような珍しい金魚がたくさん集まる、大人も子供も存分に楽しめるイベントです。

当グループは、会場内で金魚の飼育に関する相談コーナーを開設して大会に携わっています。金魚の飼育について普段疑問に思っていることがあれば、お気軽にお立ち寄りの上お尋ねください。

記

- 1 開催日時：10月27日(日)午前10時~午後3時
 - 2 開催場所：海南こどもの国(入園料・大会見学は無料)
- ※台風など荒天により、直前での中止や日程変更となる場合があります。開催の有無は主催者である弥富金魚漁業協同組合(電話0567-65-1250)までお問い合わせください。



図7 大会ポスター



図8 昨年の会場の様子

